

---

# 世界は複雑そうで簡単そうで.....

ダークサファイア

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

世界は複雑そうで簡単そうで……

### 【Nコード】

N1118L

### 【作者名】

ダークサファイア

### 【あらすじ】

登校中、交通事故に遭い、死亡した青年。しかし、目を覚ますと、そこは見知らぬ“世界”だった。

転生？になるのか？プロローグ、死の原因は誰でしょう？（前書き）

いろいろあって、全小説削除。そして、新たに小説を投稿。  
これも遅くなるかも。それでも、読んでくださると嬉しいです。

## 転生？になるのか？プロローグ、死の原因は誰でしょう？

ある朝、俺は幼馴染の ■ ■ と一緒に登校していた。何処にかつて？もちろん、高校にだ。

えっ？俺が誰かって？俺は ■ ■ ■ ■。高校三年だ。

「 ■ ■ ■ ■ ■ ■ 置いて行くよ ■ ■ ■ ■ ！」

「んっ？ああ。分かった、分かった。今行く」

考え事していたら、いつの間にか ■ ■ に置いて行かれた。と言っても ■ ■ が走って横断歩道を渡っただけだが……。

時間的にまだまだ余裕があるのにそんなに急いでなんかいいことでもあったのか？

俺が大体横断歩道の真ん中ぐらいまで行った時……俺の体に何かがあった。当たった。

「いてっ！」

その何かが通り過ぎて行った気がして俺は振り返った。

その何かは白い服を着た女の子だった。と言っても後姿だけだったので女の子とは限らないが……。

「次から気をつけろよ」

誰だっけ急いでいる時はぶつかってもそれに気がつかない時はあるはずだ。

そう考え、一応年上として次回は気をつけるように言う。聞こえているかは分からないが……。

「 ■ ■ ■ ■ っ！……！！！」

突然、 ■ ■ から切羽詰まった、まさにその言葉が合いそうな声で俺を呼ぶ。

「んっ

何だろう？と ■ ■ の方向を向いた瞬間、俺の左側というのか体全体の左半分と言つべきなのか。

まあ、左からとてつもない衝撃が俺に伝わる。

ああ、俺は跳ねられたんだ。と、自分のことなのになんだか他人事に思った。

なんて思っているとまた衝撃が伝わってくる。そして、また衝撃……。

合計で、三回ほど同じ方向から来たと思われる車？それにしてもでかいが……。

一応、トラックにしておこう。で、そのトラックに跳ねられた。

俺、トラックにリフティングされている！！と完全に跳ねられている人が思うことではない。

だが実際、そんな風に考えていた。痛みなんかはまだ感じなかった。そして、そのまま跳ね飛ばされた俺は地面に叩き落とされ、少し転がった。

その上をトラックが通った。上半身はトラックの下だったから無事だった。足あたりはタイヤが通る所にあつたらしい。グチャともブチともゴキともいえない音がした。

「……っ！……！！……！！」

これはさすがにヤバかった。痛いを通り越してヤバイ。ついではかりに、跳ねられた痛みも全身に伝わった。声なんか痛すぎて出せなかった。

「■■■■っ！！■■■■っ！！……！！」

■が必死に俺を呼ぶ。そんなに呼ばなくても、聞こえてるよ。

「っ……■■？」

声が出にくい。周りの声も遠くなってきた。視界は……真っ赤。つまり、俺は血だらけか……。

だけど、これだけは伝えなければいけない……。おそらく、■は知ってるかもしれない。

なんせ、みんな知ってたから……。でも、それでも……。……。

「しゃべっちゃダメ！！死なせないっ！！死なせるもんかつ！！」

■は泣きながら言う。ありがとう……。でも、自分のことだ。もう

駄目なくらい俺にも分かる。

「聞いてくれ……、俺はお前に、■に伝えることがあるんだ……」

「いやっ！聞きたくないっ！！」

「■……頼む、聞いてくれ……」

「なら、生きてよ！！死なないでよ！！お願いだからっ……………！！」

「……」

「……、

「さあ、言おう。チャンスなんかもうない。

俺さ、お前のこと、好き、いや、愛してた。たぶん、お前は俺の生き甲斐だった。」

「えっ…………？」

「だけど、……だけど、こ……こ……で……」

最後、最後なんだ！！男を見せろ！！■ ■ ■ ■ ■！！

俺はボロボロで血まみれな身体で■を抱きしめる。強く、今出せる力全てを振り絞って。

「ごめんな。できれば、一緒に生きたかった……。でも、“さよなら”は言わない。また“来世”でな……………」

「■ ■ ■ ■ ■？ ■ ■ ■ ■ ■っ！！？いやっ！！いやっ……………！！」

「ご……め……ん……な……」

「生きなさい 生きなさい 貴方の生は此処で終わるべきではありません

い そして……

貴方の想像した全てを貴方に与えます 生きなさ

貴方が紡ぐ幸せな“物語

”を私に見せてください」

「…………綺麗な空だ……………じゃなくて！！」

此処は何処だ！？俺は周りを見回す。どうやら、何処かの森の中らしい。

近くに、町があるみたいだ。おそらく、海鳴市だろう。

「……っ！何故、俺はその町が海鳴市だと分かる！？？」

それに、俺はこんなに小さくなかったはずだ！？

髪も赤く……ない……は……ず？

「俺？俺は……誰だ？」

そういつた瞬間、心の中で小さな、だがとても綺麗な箱が開いた気がした。

「つ!!!!!!!!!!がああアアア!!!!!!!!!!」

頭が割れるほどの痛みが伝わってくる。

それと連動して、膨大の“情報”も伝わってきた。

ある青年が生まれ、死ぬまでの“記憶”、おそらく俺の前世に当たる“キオク”なのだろう。

何故か、その“記憶”のことを自分のことのように感じる。

また、この身体の事、気付かなかったが俺の首にかかっているヘッドフォン（ヘッドバンド型？）型デバイス、

俺が持つ能力の事などいろんな情報”が頭に”刻まれる”。

それと同時に身体から何か<sup>が</sup>込み上げてくる。

それが何を意味するのか、  
“知っている”。

だから、今“なった”ら、意識が保てない。つまり、気絶……。

だが、俺の意思に反し、その何かは今にも開放されそうになる。

そして、頭の中に伝わってくる“情報”がなくなり、頭痛が止まる。

この時、彼を見れば、おそらく誰もが驚くだろう。

何故なら、今、彼の身体は光っているのだから。それも、強くなったり、弱くなったりしている。」

「~~~~~! ! ! ! ! ! ! ! ! !」

俺の何かが解き放たれる。が、すぐに身体の内側に戻っていく感覚が伝わる。

だんだん意識が遠くなっていく。その時、一つの情報が伝わってくる。

る。

「そういうことは早く教えろ……」

そう呟いて、俺は気を失った。

その情報は“全ての引き継ぎが終わり次第、強制魔神化、のち不安定期になる”というものだった。

転生？になるのか？プロローグ、死の原因は誰でしょう？（後書き）

ってことでプロローグでした。次はゲストと共に主人公の紹介です。

それでは、（後ろに振り返り）adios!Kid!!（そして、前を向いてそのままダッシュ）

「Hey!!」BAN!!

ぎゃー！！！！

「あっ・・・」

jackpot!!さすがマスターです!!」

人生は刺激があるから楽しい……だが自分の事が分からなければそれどころでは  
ということ、主人公の紹介 + α です。

まあ、設定上いろいろ可笑しいところがあるかもしれませんがそこ  
は無茶ぶり設定というところで（笑）

それでも、やっぱりおかしいと思う所があれば言ってください。

作者は曖昧な知識での挑戦をしています。（特にリリカル）

人生は刺激があるから楽しい……だが自分の事が分からなければそれどころでは

では、主人公の紹介をしていきたいと思います。ゲストはこの方！

「今から紹介される“ラグナ「クラウドエル”だ。ちなみに、前世での名は“龍宝院 刹那”だ」

つまり、名前の所には刹那の名前が入るわけさね。

「なお、■が言ったあだ名は“せつくん”と入る。ん？■の所はまだ黒塗りだが？」

もちろん！伏線のもりだよ。では次行ってみよう！

「不安だ……」

容姿：FF7ACのクラウドとDMC4のネロをいい具合に合わせ  
て倍以上良くする。目の色は蒼。

つまり、イケメン。ちなみにプロローグ直後は二歳前後なの  
でかつこ可愛いに入る。

髪型はクラウド寄りで色はアビスのルークの色合いと一緒に。

つまり、赤色だが毛先に行くほど色が薄くなる。（であつてるっけ  
？）

ちなみに前世はペルソナ3の主人公に酷似で髪を切れば瓜二  
つと友達に言われたそうだ。

イケメンなんて滅びてしまえばいいんだ……

貴方が滅びますか？

すみません！！

「…そういえば、紹介していなかったな。俺専用デバイスの  
ウィズです」

「ウィズの紹介は俺の紹介の後だったな」

ん。そうだぞ。でも、いいよね。ペルソナ3の主人公に似てるな  
んて……

「そうか？まあ、俺より■のほうが喜んでいたぞ。

なんか「せつくんと一緒にあんなことやこんなこと…ぐふふふふ・・」とか言ってたな・・・。

あれは少し引いたぞ。」

あはは（汗）でも、ペルソナ3ってあれだろ？大丈夫だったのか？

「いや、ある日突然■に「この浮気者！！」なんて言われたこともあるな（汗）」

でもあれって、そうしないと後々大変だよな？

「そうだな。時々■が「浮気者、浮気者、浮気者・・」とか言いながらやってたな・・・。

時たま、血の涙流してた（汗）」

つ、次行ってみよう！

CV：福山 潤（ルルーシュ役など）

前世もほとんど変わらず。また、前世今世変わらず声真似はぴかー。水樹奈々の声で歌を歌っていたりと女性声優の声もばっちし。（てめえの喉はどんなのだ！）

ハイ、飛ばして次行ってみよう！（怒）

「おい！こら！！」

身体能力など：身体能力はFate風に言えばすべてEXとしても過言ではないほどの高さ。しかし、運だけはE EXと安定しない。また、経験などもある特殊空間（このことは番外編として書く予定）で英霊やFFの召喚獣と戦って他をした経験や人を殺すという経験を10年間分しているため、覚悟などは心得ている。

しかし、それは19歳のでの動きのため、転生された今の状態でその経験がフルで活用されるには少し時間がかかる。

魔術回路とリンカーコアを所持しており、魔術回路

の本数は最低でも兆を超える。その性質は略奪者（文字通り、相手の魔術回路の性質（例えば、衛宮士郎の投影や遠坂凜の五大元素など）を奪い、その性質を使える。しかし、段階があり完全に奪えるのは最後。

もし、最後の段階が終わると相手の魔術回路は使用不可能。つまり、魔術師ではなくなってしまうことになる。そのため、最初の段階で十分対応できる。

ちなみに、最初の段階は相手の性質が使えるようになる。相手には変化はない。また、複数の性質をもつことが可能だが、それに耐えうる魔術回路が必要。）

リンカーコアは人と違い3つ所持しており、一つのリンカーコアの魔力量は恐ろしく多く、ランクにするとSSSの相乗以上あり、それらが共鳴しあうことで安定する。今現在、彼のリンカーコアは安定していない。

普通の身体では当然耐えきれないはずだが、彼の身体は魔と人の血を身体に宿し、その身体は細胞一つ残らず消え去っても復活し19歳になれば不老になる不老不死であるため大丈夫だが、

その影響があつてか、右腕は悪魔になっている。（ネロと同じ腕。技も同じことができる）そのため、常時その腕には包帯が巻かれている。ちなみに、この時期を不安定期と呼ぶ。

戦闘スタイル：不安定期でのスタイルはネロとそう変わらないがダントのスタイル技などいろいろ組み合わせられていたりネロとの発想の違いで新しい技があつたりする。

ちなみに、魔人化はネロ、その上の魔神化はダンテの魔人の両手をネロの右腕を強化した感じ（肘の所を鋭くしたり少し刺々しくしたり）にし、両足をネロの右腕のような感じにし、顔の髭の辺り棘が消え、頭の真ん中にある髪が赤くなり少し長くなる。また眼が金色になる。

また、全体の色は全体的に黒になり、所々藍のライ

ンがある。両手両足の部分はネロの右腕の赤い部分と同じ所が黒くなる。発光は基本は蒼。

その他：他にも色々特殊能力がある。

・理想郷への扉（ゲート＝オブ＝アヴァロン）

王の財宝（ゲート＝オブ＝バビロン）の強化型で宝具の原典はもちろんそれから派生した宝具（約束された勝利の剣など）、またペルソナ3とFFとあとの一つの作品に出てくるアイテムも使用可能。真名開放もバビロンと違い使用可能。

ちなみに、英霊エミヤの無限の剣製は中のある複数の武具などを使用可能になるだけであり、本来の無限の剣製は使えない。

また、複数所持可能及び複製可能。しかし、宝具系統に関しては最高で宝具一つに3つまで。出せるのは2つのみ。また、効果が薄くなる物や意味のない物もある。乖離剣エアに対しては複製は可能が出せるのは一つのみ。

（例えば、メデューサの石化の魔眼。ヘラクレスの十二の試練は二つ装備で14回までの自動蘇生及びランクA+に満たない純度の攻撃無効化になる）ちなみに、アイテムなどは99個までなら所持可能。

また、ある特殊空間で倒し契約した英霊や召喚獣などもここに存在し召喚可能。

・創造  
クリエイター

■の恩恵。その名の通りである。考えようによっては相手を消滅できる。（例えば、“相手は存在しない”を創造する）

だが、あの一定以上の“命”を創造する時、魔力を激しく消費する。その量は乖離剣の真名開放ができるほど。

・原罪の扉（ゲート＝オブ＝スパイダ）

devilMaycryに出てくる魔具や武器が入っている。

この中にある物は複製はできないが強度などが上がっている。（例えば、銃器の強度が宝具の真名開放をくらっても壊れない、レッドクイーンが魔具化など）また、壊れても此処に収納することで修理

される。基本置いてあるのが3と4の魔具や武器。また、1と4の服装なども此処にある。

- ・ 記憶の完全保存化

つまりは完全記憶能力者、以上。

- ・ 根源の本棚

某仮面ライダーの■の本棚とほぼ一緒。だが、ラグナはほとんど使わない。保険のようなもの。

■の恩恵の一つ。

.....

「.....」

.....えへっ♪

ビキッ 「..... You shall die.....」

えっ、ちょ、まつ、ギャー！！

「.....ふう。さてと、次はウイズの紹介だな」

はい

名の由来：共にいる者という意味を込めて付けられた。

形：DMC4のネロがプロローグに着けていたヘッドフォンに酷似しているがネックバンド化し発音部分の背面がREBORN!のXグローブの手の甲のクリスタルのようになっている。

そのクリスタルの中に右耳側に“D”、左耳側に“G”と書かれている。

ちなみに、音楽が聴ける。聞ける内容はラグナが好きな曲ばかり。どうして入っているかは不明で、好きな曲があると何故か登録されている。

CV：名塚 佳織（ナナリー役など）

その他：ヘッドフォン型というのもあってかウイズの声はラグナ以外には聞こえない。

念話もできるが他人と話す時ぐらいしか使われない。

「一応、此処までだな。ウィズの設定は大体決まっているがこれ以上ネタばらしは良くないしな…」

そうですね。一応、私もチートに入るらしいですが…

「そう。チート過ぎて出し所が極端にない！ということで当分は俺の話相手だな」

喜んで務めさせて頂きます！！！！

「き、気合入ってるな・・・」

もちろんです！！

「そ、そうか・・・。じ、次回は！・・・まだ決まっていらない」  
「そうですか・・・。ちっ、このクソ作者が（ボソ）」

「ん？どうした？」

いえ！なんでもありません

人生は刺激があるから楽しい……だが自分の事が分からなければそれどころでは

あれ！？もう書くことがない！？ということでした次回また会いましょう！

Adious！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1118/>

---

世界は複雑そうで簡単そうで.....

2010年10月14日15時23分発行